

# 県内の知的障害教育を紹介

元校長 西岡ゆき子さん共著

知的障害のある子どもたちの意欲や自信を培う「生活単元学習」の解説書がこのほど刊行された。高知市の特別支援教育スーパーバイザー、西岡ゆき子さん(73)の共編著書で、県内小中学校の特別支援学級の実践事例を紹介している。

生活単元授業は、知的障害のある子どもたちが生活上の目標達成や課題解決のため、さまざまなテーマに沿って行う学習活動。ただ内容は



生活単元学習の解説書と、執筆した西岡ゆき子さん(高知市内)

## 「やる気育てる授業を」

教員に任せられる部分が大きく、「具体的にどうすればよいか分からない」という声もあった。そこで西岡さんと明治学院大学の高倉誠一准教授が、県内の教員12人の協力で実際の授業の指導案と計画の流れなどをまとめ、「知的障害特別支援学級と生活単元学習」(ケーアンドエイチ刊)として出版した。

20事例を収録。ある学校で毎年続いているゼリーの製造販売活動では、各児童ができることに応じて「正確に領収書を作る」「決まった数のラベルを作る」などの目標を立て、教員が子どもの主体性を支えながら、細やかに準備・指導した過程が示された。

ほかにも「非常食カフェを開こう」「学校の花壇を整備しよう」「七夕祭りをしよう」など、多彩な内容を掲載。学級のみならず一生懸命取り組み、成功体験を積み重ねていくことの大切さも説いている。

高知市の元特別支援学校校長も務めていた西岡さんは「苦手なことばかりやらされたり、人によってもらったりするばかりでは意欲が失われる。子どもたちの気持ちを育てていくことが大事。それぞれの学級に合うやり方でまねしてもいい」と話している。

B5判130頁。2200円。

(松田さやか)